



小雨の中、傘の塊がうずくまっている…これは一体何だろう？



通信ゲームで対戦している子どもたちであった
傘を囲いにして、その中に自分たちの世界を形成しているのだ



神楽坂で行われる街とびフェスタでは
長い神楽坂をキャンバスにお絵描きが行われる



大人には「入る」概念すらないところへも
子どもにとっては遊び場になる



彫刻の犬とたわむれる子ども



丸ビルの一角にある企業プロモーションブースも
子どもたちにとっては格好の遊び場になる

Children of Tokyo

東京のこどもたち

おかあさんが見たら“やめて、やめて”ときっと言うのだろう。
けれど、こどもたちはそんなおかまいなし。
いつでも、どこでも、自由気まま。
「百万都市東京」だって遊び場にしてしまう。

こどもたちの手にかかれば、
東京のデザインたちも、全く別の意味を持ってしまうのだ。